

トランプ2.0時代を 生きる

東 浩紀 (批評家、作家)

ビッグテック系超人思想と白人優位主義、
その2つが不気味に合わさった第2次トランプ政権と、
これからの世の中をどう捉えたらいいのか？
そして、一部の人にしか届かなくなってしまった哲学の議論を
再構築するには何が求められるのか？

二度目のトランプ政権——いわゆるトランプ2・0の政権中枢にいるイーロン・マスクらは「人間はテクノロジーによって人間を乗り越えることができる」という思想を持っています。ポストヒューマン的なテクノロジーバリアン思想と呼べるでしょう。

この手の思想は、人間に対する過剰な信頼であると同時に、人間のベースにある欲望を反映しています。これが一九世紀末に現れたのが、ニーチェの超人思想でした。超人思想はかつてナチスを生み出したわけですが、今回のトランプ政権も似たところがある。

テクノロジーによって、人間が人間を乗り越えることができるという思想に基づいた統治。少なくともイーロン・マスクはそれを狙っている人です。彼は人類が大勢、火星に行って生活できると主張する。人間はなんでもできる、と。

第二次トランプ政権と思想の問題

しかし彼は人間社会の細かい問題にはほとんど興味がない。

僕としては、このポストヒューマン的テクノロジーバリアン思想の背景に加速主義的な考え方があることが重要だと考えています。世界が一気に、急速に変化する、大きな変革が近づいている、というタイプの議論です。これは要はユダヤ・キリスト教的終末論の変形で、マルクス主義の根っこにもある。その点でシンギュラリティ論とマルクス主義は意外と近い。

人類が進歩してきたのは事実です。『資本論』に書かれている、一九世紀中葉のイギリスの労働環境の悲惨さ、人権意識の欠如といったそれはものすごい。八歳の子が働いていた、狭い部屋に二家族がすし詰めとか、そうした現実があった。

それに比べると、現代の欧米諸国の労働問題は水準がぜんぜん違う。そういった点での人類の進歩は確実に起きてきたし、これからも起こ

2010年、批評家の東浩紀氏によって創業されたゲンロンは今年、15周年を迎えた。写真は、東京・五反田にあるイベントスペース「ゲンロンカフェ」。



Part 1

求められる哲学

世界が急速に変化し、価値観が揺らぐ現代。
私たちにいま本当に必要な「哲学」とは何か。

哲学者や批評家の言葉から、
いま求められる思考のあり方を探ります。

る。けれども、それが突然世界を変えんとする考え方には警戒が必要です。

それは幻想でしかなく、詐欺の道具になるからです。逆に言うと、警戒すべきものが堂々と政権中枢に入ってしまったのが現代のアメリカの政治世界です。

イーロン・マスクがテック系超人思想を担っているのに対し、副大統領のJ・D・ヴァンスは白人優位主義の復活を望んでいる。トランプ政権ではこの二つが合わさっているのが不気味です。

ヴァンスは「本来のアメリカ国民であるはずの白人が報われていない」という思いを持つ人々の支持を吸い上げています。この人たちの恨みは、移民やリベラルエリートに向かい、政策としては移民の送還、大学や教育機関への助成金打ち切りなど矢継ぎ早に出されました。

リベラルはこの動きに対して、トランプの政策では白人貧困層こそ苦しめられるのにおかしいと批判します。実際そうだと思いますが、では逆に、白人貧困層に金を配れば政権を支える熱狂は収束に向かうのか。

ここでヒントになるのがマイケル・サンデルとトマ・ピケティの対談です。対談の中で、ピケティは「白人貧困層に対して経済的な手当て



あずま ひろき 批評家、作家。
1971年生まれ。株式会社ゲンロン創業者。著書に『存在論的、郵便的』『動物化するポストモダン』『クォンタム・ファミリーズ』『一般意志2.0』『テーマパーク化する地球』『ゲンロン戦記』『観光客の哲学 増補版』ほか多数。

を施せば民主党復活の可能性もある」といった主張をしている。

それに対し「そうじゃない、彼らにとつて大事なのは尊厳なんだ」というのがサンデルの主張です。この点で二人は対立する。

これについてはサンデルが正しいと思います。サンデルが問題にする「尊厳」とは、「物語」とも言い換えられるでしょう。多少貧しくなっても構わない、大事なのはわれわれが「グレート」だと感じられるかどうかなんだ、ということです。それに対し左翼・リベラルは「いやいや、そんなものは全部幻想だ、だまされてはいけない」と説得を試みる。でも人間は幻想がないと生きていけない存在なんですよ。ナラティブが、物語がないと。

いまの問題はそこで悪質な物語が跋扈^{ばつこ}し始めていることです。だから、悪い幻想に対してよい幻想をあてる必要がある。いまや左翼が人々を鼓舞^{こぶ}したり、元気にしたりする言葉を発信できているところに根本的な問題があると思います。

こう言うと今度は「それってナシヨナリズムにいつてことですか？」と反論が来るかもしれません。その危険は知っています。大きな物語は必ずマイノリティを切り捨てる。実際そう

この続きは本誌でどうぞ！